

令和元年度 第2回生駒市社会教育委員会議録(要約筆記)

1 日 時 令和元年12月10日(火)午後3時から

2 場 所 コミュニティセンター 401会議室

3 出席者

(委員) 大谷裕美子委員(議長)・山中治郎委員(副議長)・安部敬二郎委員・
大辻哲夫委員・大原暁委員・白樫学委員・近藤裕一委員・清水泰之委員・
中田弘司委員・平井富久子委員・益田碧委員・松尾正則委員・松山敏宏委員

(事務局) 八重生涯学習部長・梅谷生涯学習課長・西スポーツ振興課長・西野図書館長・
錦図書館南分館長・平澤図書館北分館長・中谷駅前図書室室長・
谷江生涯学習課主幹・今井生涯学習文化係員・小関生涯学習文化係員

(欠席者) 藤埜聖士委員

(会議の公開・非公開) 公開

(傍聴者) なし

4 議事内容

○ 審議案件

(1) 社会教育研究大会等の報告について

●第61回全国社会教育研究大会兵庫大会(以下、全国大会)

●第41回全国公民館研究集会奈良大会・第67回近畿公民館大会奈良大会・第67回奈良
県公民館大会及び第31回奈良県社会教育研究大会(以下、奈良大会)

について、参加委員から感想を聞く。

清水委員 率直な感想として、全国大会は二日間もあるのに実践報告などが少なく、イベントのようになってしまっていると感じた。各分科会(全国大会では第3分科会、奈良大会は第1分科会)に参加し、イベントの報告は聞くことができたが、それによって地域や住民や学校の連携が事業を通してどう発展し、社会にどのような変化を引き起こしたのかという、一番肝心なところが聞けなかったことが残念だった。イベントという一つの手段を通して、社会教育として学校や地域と連携して変えていくかという目的の中で、地域や子どもがどのように変わっていったのかという過程が一番肝心なのであって、ただイベントの紹介に終わってしまっているようで、もどかしさを感じた。

平井委員 どちらの研究大会にも参加したが、清水委員が仰ったように、分科会ではやったことの発表でそれに対する質問等あまりなかった。また、時間が押していたため、その後の変化についての話をする時間がとられていなかった。

生駒の子どもの本連絡会が学校を借りて図書館の行事をさせていただいた経験もあったため、全国大会の第1分科会に興味を持って参加し、滋賀県高島市の事例発表を聞いた。高島市は人口5万人の自治体で、社会教育委員と教育委員の交流の場があると言っていたことに驚いた。これはどこの自治体でも可能なことなのかどうかと思った。他の市町村ではもっと会議があるようなので、年2回ではなかなか提案しても広げていく方向などが見えてこないと思う。

松尾委員 全国大会では第5分科会に参加した。稲むらの火の館は過去に何度か訪れたこ

とがあるが、今回の話では、濱口梧陵が津波から村人を救った話を、津波対策として今の子どもたちに伝承しているというものだった。語り部が教えることで、子どもたちが将来にわたって津波から街を守るにはどうしたらいいかということ力を強く伝承されていると感じ、「継続は力なり」というが、このような伝承が続いているということは大切なことだと思った。生駒は災害が少ないが、もし災害が起きたらどうするのか、いろんな事業を続けていくことが大切と感じた。

奈良大会では、記念公演が奈良の大仏についての話で面白かった。

松山委員 全国大会では清水委員と同じ第3分科会だった。(京都府船井郡京丹波町の社会教育委員が、友好町である福島県双葉郡双葉町に「京丹波の秋の恵みを届け隊支援プロジェクト」として物資を支援しているという話を聞いて)おそらく大阪万博から両町が交流を持つようになり、その後東日本大震災が起きたため、京丹波町の社会教育委員も何かしなければいけないと立ち上がったのだと思うが、まずは行政が中心となって動くものだと思っていたので少し違和感があった。物資から始まって最後は心の交流、子どもたちを巻き込んで相互交流を作っていたという点はすばらしいと感じた。

奈良大会では沖縄の方が多数参加されていて、沖縄では自治会長が公民館を管理運営しているということで、普通では考えられない新しい公民館の運営だと思った。

大原委員 全国大会は記念公演の話が良かった。多文化共生について、我々の選出母体でも劇作家、演出家でも感じ方が違うということがわかり、様々な立場の人の話を聞くことが出来て良かった。しかし、他の委員が仰ったとおり、結果ではなくプロセスが知りたいので、例えば失敗談であってもこのように解決したという裏側などを聞けるような研究大会であれば、より成果が出るのかなと感じた。

大谷議長 研究大会でキーワードを頂いたと思う。全国大会の記念公演の講師であるオリザさんが「これからの学びは『何を学ぶか』だけではなく『誰と学ぶか』も大切にしていきたい」とお話されていて、その通りだと思った。これから、地域と社会教育との関係を深めていき、子どもたちを育むということが必要になってくると仰っていたことが印象に残った。

また、分科会の助言者であった立命館大学准教授の谷井先生の話の中で「学校づくりだけでなく、子どもたちといっしょに地域をも作っていかうということが『doing』であるならば、これから必要なのは、子どもたちが安心できる場で大人に守ってもらっていることを認識し、自己肯定感を育てていくという『being』である。そして、チャレンジできる場を認めていき、作っていくことが大事だ」と仰っていた。「doing と being の関係性」についてもキーワードとしていただけてきたと思う。

様々な大会に出向いてもらうことで、社会教育として聞いてきたことをそのまま自分たちのものにするものもあるし、それをヒントに自分たちの地域に合うものとして、取り込んでいくことも大事なことだと思うので、時間のある時はこのような大会に参加していただきたい。

(2) 令和元年(平成31年度)生駒市社会教育基本方針及び重点目標の取組状況について事務局から説明(パワーポイントを使用)

(質 疑)

松山委員 生駒市教育委員会活動点検評価報告書の中で、スポーツが社会的な役割を担う

時代になったというように評価されているので、トップアスリートと触れ合うことで凄さや技術的なものを実際に見て語っていったら、教育の一つとして良いのではないかと思う。知識だけでなく感覚的なものも大切になってくると思うので、できるならそのような事業を広げて行ってほしい。

事務局 来年度はオリンピック・パラリンピックイヤーなので是非広げていきたい。

清水委員 自治会として、集会所でボッチャをやろうとしたが、スポーツなのに部屋の中でやるのは何故かという意見があり、体育施設を開放してやったらいいのではないかという話が出ている。行政としても、裏付けをもって（どこでやるべきスポーツであるのか）提案してほしい。

また、健康体操などを実施するなら、個人の健康や楽しみのためだけでなく、地域全体を巻き込むことを目的としなければいけないと思う。そのような狙いやビジョンをもってやって行ってほしい。

事務局 本来の目的に合った形でできるように検討したい。

(3) 第2次生駒市教育大綱及び令和2年度重点目標の作成について 事務局から説明

(質 疑)

清水委員 教育大綱案の中で、基本方針1の1の「見守り育みます」とあるが、「子どもを主体としてまちづくりへの参画を促していきます」というような表現がこれからは必要になってくるのではないかと思う。見守るだけでなく、きちんと子どもの意見を取り入れつつ運営していくような視点や、まちづくりに参画し、意見をもつ子どもがこれから必要となっていくのではないかと思う。

事務局 現在、案の段階のため、意見として参考にさせていただく。

松山委員 行政側と委員のギャップがあると感じられる。この間の全国大会でのグループ討議の時に、私のグループはほとんどが行政側の方が多く、社会教育委員と教育委員の交流をしていきたいという方向で進めている自治体があった。何か違いがあり難しいということがあるようだが、コミュニティスクールなどの話になると社会教育や学校教育という仕切りを無くして話していかなければいけないと思うので、教育委員と交流が持てるような場があれば、社会教育委員として教育委員に意見もできると思うので、生駒も同じようにできたらありがたいと思う。

事務局 実際に境目のないような案件も出てきているので、検討していきたい。

(4) その他

- ・コミュニティスクールについて議長より説明

閉 会